聖稜リハビリテーション病院　令和６年２月７日発行

聖稜だより

令和６年　冬号

新年を迎えて

令和6年は能登半島地震という悲しい出来事で始まり、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当院は2月に病院機能評価受審を予定しており、業務の見直しや施設内の整理整頓が行われ、５Ｓ活動においては日に日に施設内がきれいに安全でわかりやすい形に変わっていき、感動すら覚えています。

また、当院は昨年8月に地域の皆様の身近ないち医療機関として内科標榜し、令和6年4月からは医師会の内科当番医も参画することになります。12月からは個別性と専門性に特化したリハビリをご提供できる施設基準を取得して、リハビリの体制をさらに強化しました。本年も継続できるように一層努力してまいります。

介護部門では老人介護保険施設（老健）が本来の目的である入所者様が住み慣れた地域で安心して暮らせるように在宅復帰に力を入れた基準（超強化型施設）を取得しました。他施設も利用者様が自分らしく暮らすことができるよう、日々躍進して参ります。

病院・介護保険部門ともに新体制となり、法人全体の一体感が増し経営面でも少しずつ改善が見られ、明るい未来を感じております。

だれが歌ったのかわかりませんが、「世の中は、今日よりほかはなかりけり　昨日は過ぎつつ、明日は知られず」という古歌があります。今を真摯に生きることが大切であるという人生訓でしょうか。わたくしは皆がそれをすでに体現してくれていると感じています。

本年も皆様にとってより良い年になるよう願っております。

理事長　横山 日出太郎

令和５年度 看護研究の取り組み

今年度の看護研究のテーマは『回復期リハビリテーション病院におけるSLB装着に伴う、MDRPUリスク、予防についての意識調査』です。

２人の中堅看護師による取り組みで、当院の看護職とセラピスト対象の勉強会を実施し、その前後でMDRPU（医療関連機器圧迫創傷）への関心がどの程度深まったかを調査しました。MDRPU発生がリハビリテーションにどのように影響するかを考える良いきっかけになりました。

令和６年度第６０回日本リハビリテーション医学学術集会にてポスター発表します。

看護統括　吉田 延子

片麻痺、
脊髄損傷等
身体障害用

ドライブシミュレーターに

運転補助装置を導入しました！

右半身や下半身が不自由な方等の運転再開支援ができるよう、
自動車改造用の運転補助装置を導入いたしました。

事故による怪我、脳卒中等の麻痺、感覚障害などの身体障害により、普通自動車をそのまま運転することが困難となることがあります。
運転免許センターで適正相談の上、公安委員会で条件付き適格と判断された場合、運転補助装置等を使用して運転再開することとなります。

当院ではドライブシミュレーターで以下の運転補助装置が使用できます。

ハンドル旋回ノブ	左足用アクセルペダル	手動運転装置
片手のみで ハンドル操作をするための 旋回グリップ	右足の不自由な方が 左足でアクセル・ブレーキ 操作を行う装置	両足の不自由な方が 両手のみで運転する装置

背髄損傷や脳血管障害による片麻痺、右足切断等、お身体の状態に合わせて
運転操作の評価を兼ねて使用していきます。

医療法人社団聖稜会
聖稜リハビリテーション病院
〒426-0133　静岡県藤枝市宮原676-1
TEL 054-639-0112　FAX 054-639-0789
https://seiryoukai.or.jp
聖稜リハビリテーション病院　検索